

第 1 節 公害苦情の件数

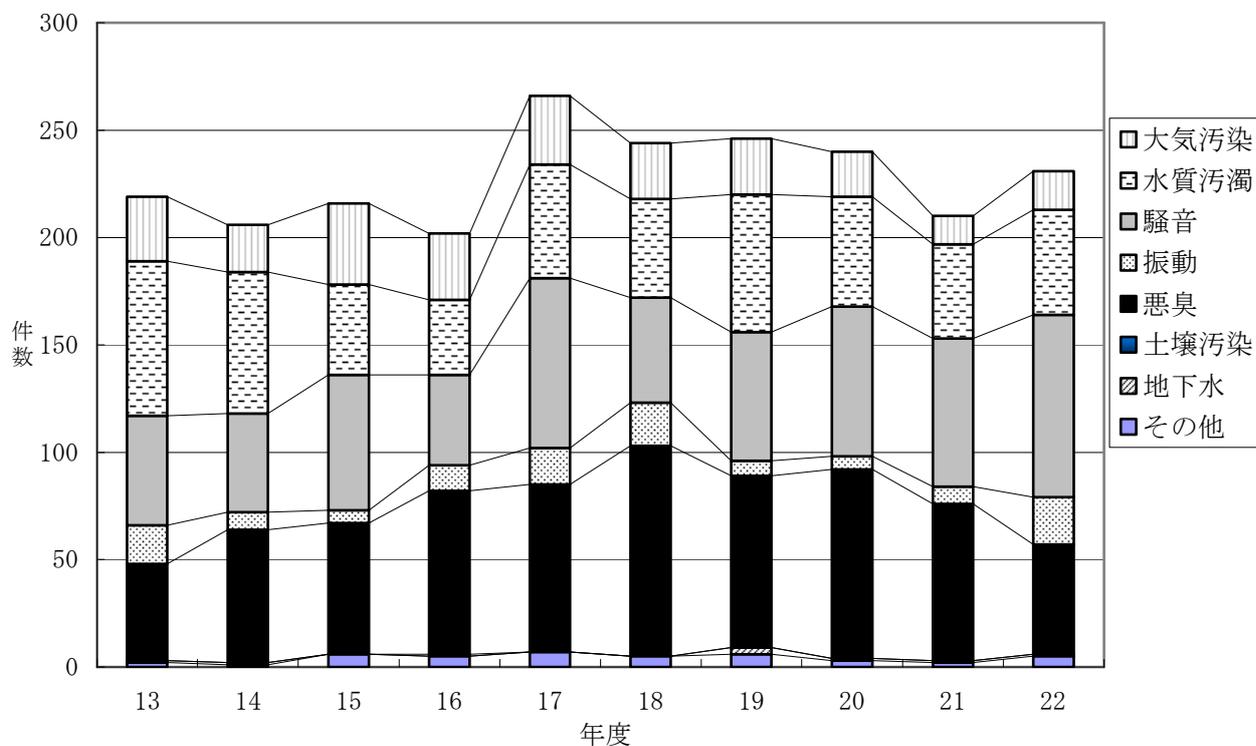
1 公害苦情の件数

平成22年度の公害に関する苦情件数は231件で、前年度よりも21件増加しています（表12-1、図12-1）。

表12-1 年度別公害苦情の件数

年度	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地下水	その他	合計
13	30	72	51	18	45	0	1	2	219
14	22	66	46	8	62	0	1	1	206
15	38	42	63	6	61	0	0	6	216
16	31	35	42	12	76	1	0	5	202
17	32	53	79	17	78	0	0	7	266
18	26	46	49	20	98	0	0	5	244
19	26	64	60	7	80	0	3	6	246
20	21	51	70	6	88	0	1	3	240
21	13	44	69	8	73	0	1	2	210
22	18	49	85	22	51	0	1	5	231

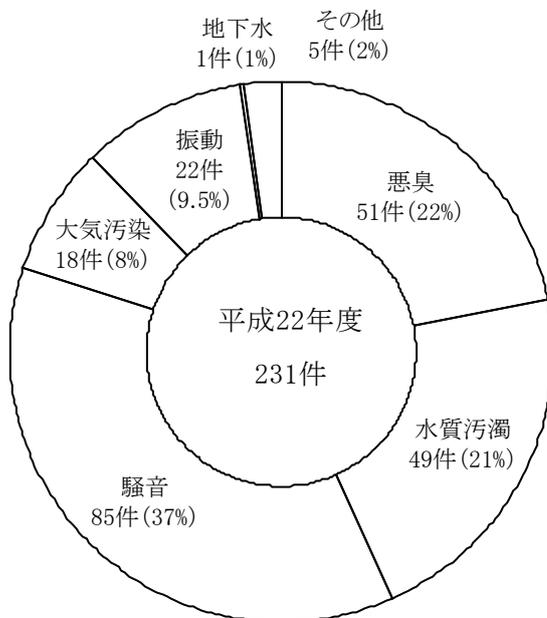
図12-1 年度別公害苦情件数の推移



2 種類別の苦情件数

苦情件数を種類別にみると、騒音の苦情が最も多く、以下悪臭、水質汚濁、振動、大気汚染の順となっています（図12-2）。

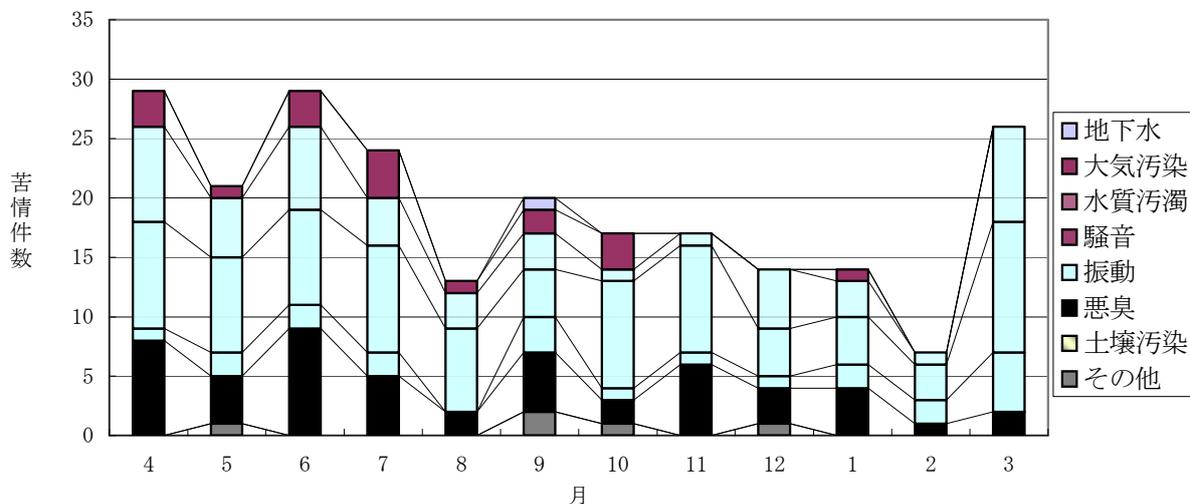
図12-2 種類別苦情件数



3 月別の苦情件数

苦情件数を月別にみると4月から7月と3月に増加傾向がみられました。全体的にみると、冬場に減少する傾向がみられました（図12-3）。

図12-3 月別の苦情件数



4 業種別の苦情件数

苦情発生源を業種別にみると、苦情件数が最も多かったのは総合工事業（56件）で、以下サービス業（47件）、家庭生活（26件）、製造事業所（19件）となっています。

表11-2 発生源の業種別の苦情件数（平成22年度）

業種	大気	水質	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	
耕種農業					4			4	
畜産養蚕農業		3	1		1			5	
農業サービス業									
林業									
漁業									
金属工業									
石炭原油鉱業									
非金属工業									
総合工事業	3	6	35	11			1	56	
その他工事業		2	3		1		1	7	
製造事業所	食料品製造業	2	4	3		6		15	
	繊維工業								
	木材製造業								
	パルプ製造業								
	出版関連産業								
	化学工業								
	石油製造業								
	プラスチック製造業								
	ゴム製造業								
	窯業等製造業	1			1				2
	鉄鋼非鉄金属			1					1
機械器具製造									
その他製造業					1			1	
(小計)	3	4	4	1	7			19	
電気ガス等									
水道業			1		1			2	
鉄道業				1				1	
旅客輸送業									
貨物輸送業		1						1	
航空運輸業									
その他運輸業			1					1	
サービス業	再生資源卸売		1					1	
	卸売・小売業	1	1	5	1	1		9	
	飲食業		1	4		3		8	
	飲食店のカラオケ			3				3	
	洗濯理容業等	3		1				4	
	駐車業								
	生活関連サービス								
	旅館等		2					2	
	娯楽業		1					1	
	娯楽業のカラオケ			1				1	
	ゴルフ場業等								
	自動車整備業			1		2		3	
	機械修理業			1				1	
	専門サービス業		1					1	
	廃棄物処理業	2	1		2	2		7	
医療業等	1	1					2		
社会保険福祉			1	1	1		3		
教育業									
その他サービス業			1				1		
(小計)	7	8	19	4	9			47	
公務	1							1	
家庭生活	3		8		12	1	2	26	
家庭生活ペット		1	1		3			5	
事務所		2						2	
道路		1	1	2	3			7	
空地									
公園									
神社寺院等									
その他		7	5	3	2			17	
不明	1	14	6		8		1	30	
合計	18	49	85	22	51	1	5	231	

5 用途区域別の苦情件数

苦情の発生源を用途地域別にみると、苦情件数が最も多かったのは住居区域の103件（44.6%）で、次いで調整区域の51件（22.1%）、商業地域の34件（14.7%）となっています。

表12-3 用途地域別公害苦情件数

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	比率%
住居区域	9	15	43	10	21	1	4	103	44.6
近隣商業		3	7	1	2			13	5.6
商業		3	19	5	6		1	34	14.7
準工業	2	1		1	1			5	2.2
工業		1		1	1			3	1.3
工業専用	2	3			6			11	4.8
調整区域	4	22	11	3	11			51	22.1
その他			3	1	2			6	2.6
特定できず	1	1	2		1			5	2.2
合計	18	49	85	22	51	1	5	231	100.0

6 被害の種類別の苦情件数

苦情原因を被害の種類別にみると、感覚・心理的が最も多く苦情全体の約8割を占めています。

表12-4 被害の種類別公害苦情件数

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	比率%
健康	4	3	11	5	10		4	37	16.0
財産		1		3				4	1.7
動物・植物		3						3	1.3
感覚・心理的	14	40	74	14	41	1		184	79.7
その他		2					1	3	1.3
合計	18	49	85	22	51	1	5	231	100.0

第2節 公害苦情の概況

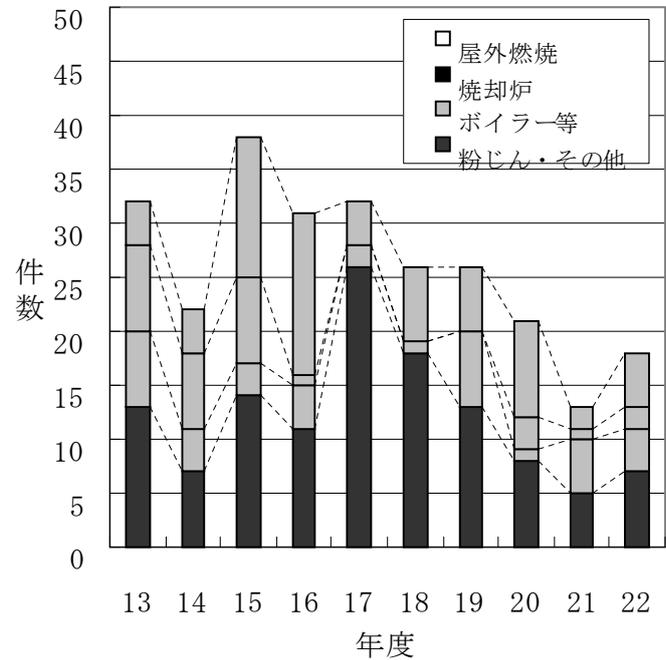
1 大気汚染

苦情件数は18件で前年度より5件増加しました。

ばい煙に関するものは11件で、発生源の内訳は野焼きが5件、焼却炉が2件、ボイラー等が4件となっています。

粉じんに関するものは7件で、発生源としては工事現場が3件と工場等が2件、その他2件となっています。

図12-4 大気汚染苦情内訳



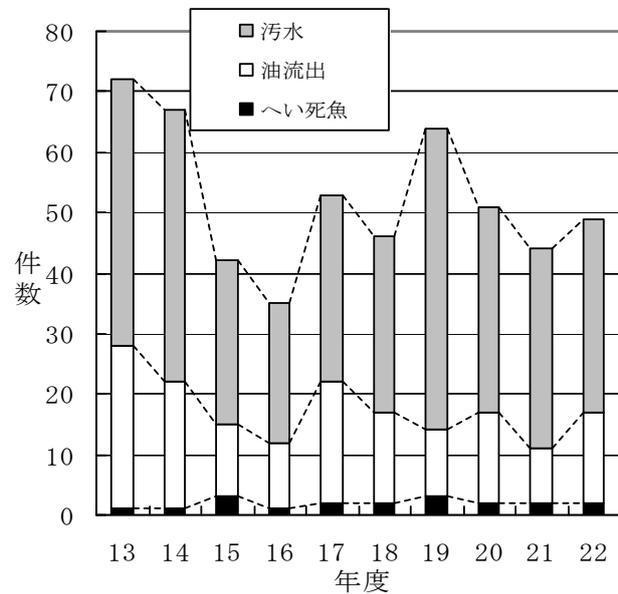
2 水質汚濁

苦情件数は49件で前年度より5件増加しました。

種類としては、汚水32件、油流出15件、へい死魚2件となっています。

河川汚濁事故対策としては、発生源に対する汚水処理の適正指導、汚濁物質の取扱い事業所に対する文書指導、広報誌による意識啓発等を行っています。

図12-5 水質汚濁苦情内訳



3 騒音

苦情件数は85件で前年度より16件増加しました。

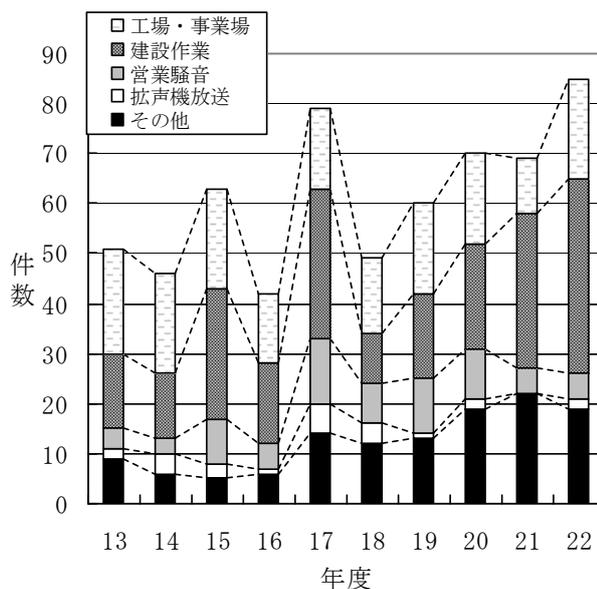
発生源の内訳は、工場・事業場等20件、建設作業39件、営業騒音5件、拡声機放送2件、その他自動車や家庭生活からが19件となっています。

聞く人の身体や心理の状態、聞く時間や周囲の状況によって、うるさく感じる度合いが異なり、また、個人の感情面にも左右される要素があります。

さらに、発生源と苦情申立者が隣接しているにもかかわらず、当事者間での話し合いが持たれる前に、苦情として市に申し立てられることが多く、隣人同志のコミュニケーション不足も都市・生活型公害が増加する大きな要因となっています。

現代の都市形態の中で、快適な暮らしを維持していくためには、自分自身の生活だけでなく、他人の生活への配慮が必要です。

図12-6 騒音苦情内訳



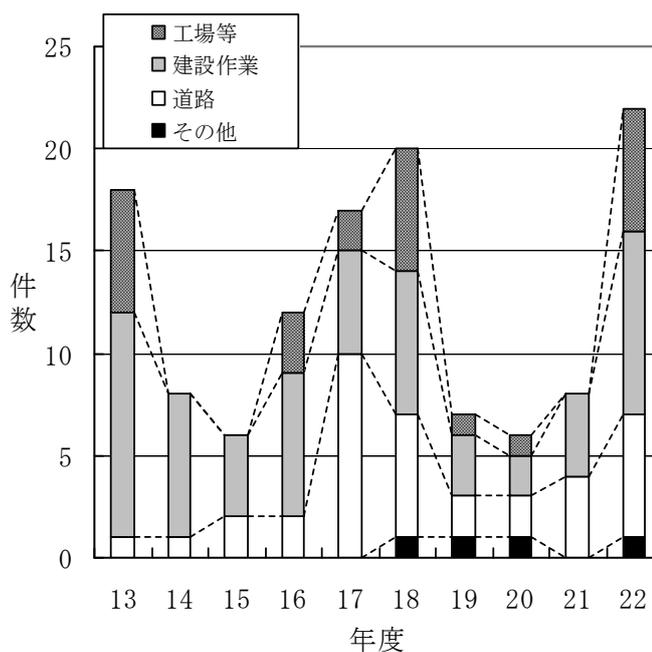
4 振動

苦情件数は22件で前年度より14件増加しました。

発生源の内訳は、工場・事業場6件、建設作業9件、道路交通6件、その他(鉄道)1件となっています。

大型車による道路交通振動や建設現場や資材置場でのバックホウ・ダンプの移動が、振動発生源となっている事例が多くみられました。

図12-7 振動苦情内訳



5 悪臭

苦情件数は51件で前年度より22件減少しました。主な苦情発生源は家庭生活15件、工場・事業場11件、野焼きなどの物の燃焼6件、畜産・農業6件、塗料のシンナー臭1件、側溝6件、その他や発生源不明が6件となっています。

畜産農業系の苦情については、都市化による住居と畜産農家との混在化、住民の快適環境への要求の高まり等が原因と考えられます。

図12-8 悪臭苦情内訳

